

いす
杵の木

磁祖加藤民吉出生之地

1

磁祖加藤民吉出生之地

「パルティセと」の北側には、民吉の生家があったため、昭和12(1937)年に、尾張徳川家19代当主・徳川義親よしかちかにより「磁祖加藤民吉出生之地」と書かれた石碑が建立されました。また、石碑の隣には磁器の釉薬いすに使われる杵いすの木が植えられています。



2

窯神神社

民吉が祀られる神社で、社殿は登窯を象った形をしています。本神社の建立については、民吉が日ごろ信仰していた神々(秋葉山大権現・天満威徳天神・金毘羅大権現)を窯神として祀り遙拝したいと、文化9(1812)年に藩庁に願ひ出たことが始まりです。その12年後に民吉個人の遙拝所として許可が下り、彼の窯場後方に建立されました。文政9(1826)年には、二代民吉が初代民吉を丸窯神(現在は窯神)と称して追祀しました。



残心の杉

民吉が九州での修業を終え、文化4(1807)年に佐々を去る際に記念として杉を植えました。その杉は現在樹齢200年の大木となっています。この「残心の杉」は、平成16(2004)年に佐々の杉の枝を取り寄せ、挿木・育成し植樹されたものです。



飲水思源

民吉が九州での修業の際、身を寄せた東向寺のある本渡市(現:天草市)から贈られた天草陶石でつくられた碑。民吉が受けた恩を忘れてはならないことを今に伝えています。



津金胤臣 父子頌徳碑

熱田奉行津金胤臣とその子胤貞の碑。胤臣は民吉の才能を見出し、胤貞は民吉を九州に送り出すために尽力しました。



磁祖 加藤民吉翁碑

大正11(1922)年に建立された、民吉の伝記が記された碑。1117文字の長文で、市内の碑の中では最長のものです。



加藤唐左衛門 高景翁頌徳碑

庄屋として瀬戸の窯業の発展に貢献した人物。磁器製法の進歩を目指し、民吉の九州修業を支援しました。



3

瀬戸染付工芸館

江戸時代から代々続いた染付窯屋(古陶園)の細工場を復元した建物で、「瀬戸染付」をテーマとして、ロクロや絵付などの作業風景の公開や瀬戸染付の名品の展示などを行っています。この建物は平成13(2001)年に第8回愛知まちなみ建築賞を受賞しています。また、施設内には江戸時代末期から瀬戸で使われた「古窯」が保存されており、この古窯は昭和39(1964)年まで使用され、市内で唯一残されたもので、平成9(1997)年には瀬戸市指定文化財に、平成19(2007)年には近代化産業遺産群に認定されました。



瀬戸染付工芸館

開館時間 午前10時~午後5時
休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始
入館料 無料

染付体験

体験メニュー
はしおき200円、ブローチ300円、小皿500円など
受付 本館1階にて随時受け付けます。(午後4時まで)
※5名以上での体験は事前にご連絡ください。(0561-89-6001)
※作品は焼成後、後日お渡しします。(郵送料別途)

呉須という顔料で絵付をする「染付」が体験できます。

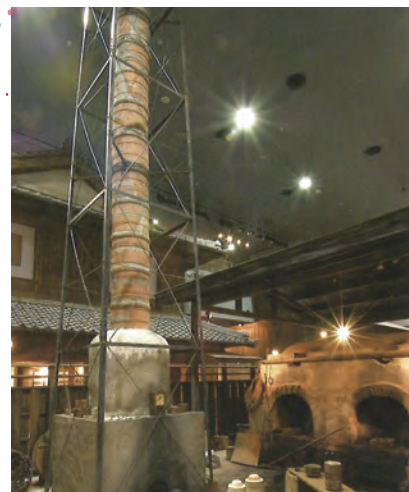
4

瀬戸蔵ミュージアム

瀬戸蔵ミュージアムは、瀬戸のやきものすべてがわかる必見の施設です。19世紀以降に登場する染付磁器の作品も多数見ることができ、中には民吉作と伝えられる優品や、万国博覧会で高い評価を受け、明治時代に数多く輸出された絢爛豪華な染付磁器なども数多く展示されています。

瀬戸蔵ミュージアム

開館時間 午前9時~午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 月1回程度臨時休館、年末年始
入館料 一般500円、高校・大学生・65歳以上の方300円
中学生以下・障害者手帳をお持ちの方・妊婦の方は無料
※20名以上は団体割引あり



重要有形
民俗文化財



青磁染付
龍瀟文大花瓶
伝加藤民吉
19世紀前期

瀬戸市
指定文化財



染付花鳥図
獅子鈕蓋付
大飾壺
川本樹吉 初代
明治9(1876)年